

## 特集 東海地震

この数年のうちに静岡県沖を中心としたエリアで発生すると予想されている東海地震について、詳しく説明します、「備えあれば憂いなし」とも言いますが、現時点での情報と対応をまとめてみました。

今回の東海地震対策の見直しで震源域が西に数10km移動し、形も長方形からなすび型へ変更されました。この結果地震対策強化地域も見直され、名古屋市をはじめとして愛知県ほとんどの市町村が強化地域に入ることになりました。この震源域でマグニチュード8前後の地震が近い将来起こることが予想されており、中央防災会議の予測では、愛知県内のかんりの市町村で震度6弱の地震が発生するとされ、**三好町でも境川下流、逢妻女川下流部で震度6弱と予想**(中央防災会議の発表資料から読みとった震度予想)されています。東海地震が発生した場合、最大で約23万棟の建物が全壊し、死者は最悪で8100人に上るとの試算も公表されています。地震の震度が5強と6弱では被害が大きく異なります。5強では傾く家があっても倒壊することはほとんどありません。ところがそれが6弱となると、現在の建築基準以前に建てられた木造家屋では、倒壊する可能性が高くなります。6強となれば、かなりの家で倒壊あるいは傾くなどの被害が出ると考えられます。

東海地震の予測・対応については、現時点では以下の流れによって行うこととされています。

監視(気象庁)

地震活動等総合監視システム  
全国360ヶ所の地震計、傾斜計など

異常発見

判定会招集

地震予知情報

警戒宣言発令

警戒宣言が発令されると、強化地域内の道路は基本的には通行止め、鉄道なども運転を停止し、帰宅困難者が名古屋市を中心として多数発生するため、**学校、企業などは、判定会が招集された時点で生徒、従業員を帰宅させる措置をとることとしています。**

では、現時点でどのような対応が必要なのかまとめてみると

(1)家族で避難場所、落ち合う場所を決めておく。

この場合に、伝言ダイヤル「171」を利用して安否情報を録音、再生することもできます。(詳しくはNTTへ)

(2)一時避難場所と広域避難場所の確認

(3)非常用持ち出し袋の準備

### 第1次持ち出し品

1 飲料水(1人1日3リットル×3日分)	13 ナイフ(アーミーナイフなど)
2 非常食(カノピなど3日分)	14 ロープ
3 救急セット(常備薬、持病の薬も)	15 ヘルメット
4 懐中電灯(単1電池式がよい、電池も)	16 筆記具/ノート(ペンは油性のもの)
5 携帯ラジオ	17 大きめの透明ビニール袋
6 現金(小銭、電卓帳のコピーも)	18 ティッシュ/ウェットティッシュ
7 貴重品(鍵、保険証のコピーなど)	19 石鹸/ドライシャンプー
8 雨具(カッパタイプがよい)	20 生理用品/紙おむつ
9 ろうそく/マッチ/ライター	21 使い捨てカイロ
10 衣類/タオル(冬用を基本に)	22 レジャーシート
11 眼鏡/入れ歯/補聴器	23 非常持ち出し袋
12 手袋(軍手など厚手のもの)	

### 第2次持ち出し品

1 生活用水(日頃から溜め置きをします。トイレのタンクも利用できます)
2 ポリタンク(給水用)
3 毛布(避難所などで支給間に合わない時必要です)
4 カセットコンロ(調理に必要です。予備のボンベも必要です)
5 斧/ハンマー/バール/ノギリ/スコップ
6 キャリーカート(重量のあるもの、かさのあるものの移動に便利です)



震度階級	人間	屋内の状況	木造建物
5強	非常に恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚のほんの多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。	耐震性の低い住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
6強	立っていることができず、はわなと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。
7	ゆれにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく倒壊するものがある。